

# 豊田喜代美ソプラノリサイタル

Kiyomi TOYODA Soprano Recital

秋の瞳  
— 木下牧子の世界



2018年11月18日(日)14時開演 サントリーホール・ブルーローズ

主催 | 豊田喜代美ソプラノリサイタル実行委員会 後援・マネジメント | (公助)東京二期会 後援 | (公出)日本演奏連盟 (株)プロコミュニケーション



## ご挨拶

このたびの豊田喜代美ソプラノリサイタル～木下牧子の世界「秋の瞳」におこしくごさいまして、まことにありがとうございます。

木下牧子さんは、現在人気実力共に最も高い作曲家として知られております。私が初めて木下牧子作品を歌ったのは、1996年に木下さんが依頼してくださったCD録音の時です。その時のピアニストは渡辺健二氏で、時には風となり、水となり、あらゆる表象を清らかでさわやかな音質と素晴らしいテクニックをもってピアノがのびのびと歌い、創造性豊かに共に演奏していく醍醐味は生涯忘れません。またの共演の機会を希望しております。

木下牧子作品の世界は、ちょっと不思議で清らかで生き活きとした唯一のものでありながら、大きな安心感のある快さを与えてくれます。弱いもの、隠されているであろうものに対する限りなく優しい眼差しを感じます。愛にあふれていると私は感じています。作品はどれもが若々しい感性に満ち、甘い切なさが芳香となって立ち上る中に居るような感覚、大空に吸い込まれていくようなのびのびとした爽快感、妖精と一緒に飛び回り戯れているような愉快的な感覚、どこまでも静かな透明な空間に漂っている感覚などを覚えました。作品の多くに風を感じます。風を受けて空の果てまでのぼった「ひばり」や白い翼を羽ばたいて飛んでいった「ロマンチストの豚」や「空が凝視している」など、天から人間の世界を俯瞰しているような歌の感覚はスリリングで愉快でもあります。

歌曲演奏の重要なパートナーである今回のピアニストは初めて共演いただく田中悠一郎氏です。田中さんはドイツとベルギーの各音楽大学伴奏科を最優秀で修めた方なので、最初の合わせの冒頭にはシューマンのIntermezzoと一緒に演奏して田中さんの音楽と呼吸を体感し、素晴らしい才能を感じました。田中さんとのリハーサルの時おりに作曲者木下牧子さんが立ち会ってのご指摘は、かけがいのないものです。このように作曲者と共にその作品の音を聴くことは恵みと思います。

今回のリサイタルに向かい、木下牧子作曲の日本歌曲を集中的に歌い、詩を味わう中で、これらの作品のみずみずしさが私を潤してくれるのを感じます。日本人の音楽家であることの幸せを深く感じています。日本語の特徴に母音があります。木下牧子作品は母音の響きを駆使できるように作られていると思います。その複雑で変化に富んだ和音は、作品が望む母音の響きを導き出すように感じます。私は、歌詞の母音の響きの中に生き活きとした「言霊」を感じたいです。木下作品に込められた、日本の動植物を含めた「自然」の生命の煌き、日本で生まれ育った人の感性が美しく響くよう歌いたいと思います。3章からなる世界初演の新作「暁の星」は大作です。この曲を深い味わい、楽器である私の身体を通して自然に適切な表現が創造されますよう演奏したいと思います。

思えば、今年初めてのオペラ主演デビュー（ペレアスとメリザンド/東京オペラプロデュース）から40年になり、最初の1983年毎日ゾリスTEN主催のリサイタルから35年です。その後、定期的に研修成果を演奏して参りましたリサイタルで、一人の作曲家の日本歌曲を歌うのは初めてです。これまでの様々な演奏・音楽体験を経て、木下牧子さんの日本歌曲をリサイタルで演奏したいと思うに至りました。

木下牧子作品の美の世界を、ご一緒にお楽しみいただけましたら幸いに思います。

感謝をこめて  
豊田喜代美

# PROGRAM

## 木下 牧子 作曲

### 「六つの浪漫」より

風をみたひと

C.ロッセッティ 詩 木島 始 訳

ほのかにひとつ

北原白秋 詩

### 「涅槃」

萩原朔太郎 詩

### 「抒情小曲集」より

うぐいす

武鹿悦子 詩

夕顔

金子みすゞ 詩

白いもの

北原白秋 詩

### 「秋の瞳」より

竜舌蘭

八木重吉 詩

空が凝視している

—休憩—

## 木下 牧子 新作品 「暁の星」

原作「夢十夜」夏目漱石 \*委嘱作品 世界初演

### 「愛する歌」より

ひばり

やなせたかし 詩

ロマンチストの豚

きんいろの太陽がもえる朝に

雪の街

さびしいカシの木



## 連作歌曲集「暁の星」 原作：夏目漱石『夢十夜』より「第一夜」 脚色：木下牧子

### 第1章

男は夢を見た。  
腕組をして枕元に坐っていると、仰向に寝た女が、静かな声で云う。  
「もう死にます。」  
女は長い髪を枕に敷いて、輪郭の柔らかな瓜実顔をその中に横たえている。真白な頬の底に温かい血の色がほどよく差して、唇の色は無論赤い。しかし女は静かな声で、判然云った。  
「もう死にます。」  
女はぱっちり眼を開けた。大きな潤のある目で、長い睫に包まれた中は、ただ一面に真黒であった。男はこの黒眼の色沢を眺めて  
「死ぬんじゃないかろうね、大丈夫だろうね。」  
「でも、死ぬんですもの、仕方がないわ。」  
「死んだら、埋めて下さい。大きな真珠貝で穴を掘って。そうして天から落ちて来る星の破片を墓標に置いて下さい。そうして墓の傍に待っていて下さい。また逢いに来ますから」  
「いつ逢いに来ますか？」  
「日が出るでしょう。それから日が沈むでしょう。それからまた出るでしょう、そうしてまた沈むでしょう。——赤い日が東から西へ、東から西へと落ちて行くうちに、——あなた、待っていられますか？」  
「百年待っていて下さい」  
「百年、私の墓の傍に坐って待っていて下さい。きっと逢いに来ますから」  
男はただ待っていると答えた。すると、女の眼がぱちりと閉じた。長い睫の間から涙が頬へ垂れた。——もう死んでいた。

### 第2章

男は庭へ下りて、真珠貝で穴を掘った。土をすくうたびに、貝の裏に月の光が差してきらきらした。湿った土の匂もした。穴はしばらくして掘れた。女

をその中に入れた。そうして柔らかい土を、上からそっと掛けた。掛けるたびに真珠貝の裏にきらきら月の光が差した。  
それから星の破片の落ちたのを拾って来て、かろく土の上へ乗せた。星の破片は丸かった。抱き上げて土の上へ置かうちに、男の胸と手が少し暖くなった。

### 第3章

男は苔の上に坐った。腕組をして、丸い墓石を眺めていた。そのうちに、女の云った通り日が東から出た。大きな赤い日であった。それがまた女の云った通り、やがて西へ落ちて行った。  
しばらくするとまた唐紅の天道がのそりと上って来た。そうして黙って沈んでしまった。  
こう云う風の一つ二つと勘定して行くうちに、男は赤い日をいくつ見たか分らない。勘定しても、勘定しても、しつくせないほど赤い日が頭上を通り越して行った。しまいには、自分は女に欺されたのではなからうかと思ひ出した。  
すると石の下から斜に、青い茎が伸びて来た。見る間に長くなってちょうど自分の胸のあたりまで来て留まった。と思うと、細長い一輪の蕾が、ふつくと弁を開いた。真白な百合が鼻の先で骨に徹えるほど匂った。そこへ遥の上から、ぼたりと露が落ちたので、花は自分の重みでふらふらと動いた。男は白い花卉に接吻した。百合から顔を離す拍子に思わず、遠い空を見たら、暁の星がたった一つ瞬いていた。男はこの時始めて気がついた。  
「百年はもう来ていたんだな。」

## 「暁の星」初演に寄せて

豊田喜代美さんの演奏を初めて聴いたのは、私が大学院生の頃、「ペレアスとメリザンド」のメリザンド役でした。当時オペラで大活躍だった彼女の声は知的で美しく、強さと繊細さを合わせ持つ謎めいたメリザンドにぴったり。もし自分が歌曲を書くことがあれば、こういう歌い手に歌ってもらいたいと思ったものです。

私が実際に歌曲を書き出し、最初の歌曲CD「木下牧子浪漫歌曲集」制作したのは、それから15年も後のことですが、演奏は迷わず豊田さんをお願いしました。収録曲は「六つの浪漫」「秋の瞳」「愛する歌」「涅槃」。豊田さん演奏のCDで私の歌曲に興味を持った、といって下さる声楽家は今も多いのです。

その後再び時は流れ、数年前、久しぶりに歌曲講習会でご一緒させて頂いた時に、豊田さんから「木下作品個展を開くので、新作を委嘱したい」という光栄なお話を頂戴しました。

豊田さんの歌には今も変わらず大きい存在感、凜とした美しさと強さがあります。そういう彼女にしか歌えない、ドラマチックなテキストはないかと探した挙句、少し冒険ではありますが、夏目漱石の短編小説集「夢十夜」から「第一夜」を選びました。10の夢、それも悪夢の物語ですが、中で第一夜だけは、大変に美しく幻想的。悪夢ではあるものの、透明な広がりのあるエンディングは、作曲家の創作意欲を掻き立てるに十分でした。そのまま使うには長いので、作品に最大の敬意を払いながら、何度も繰り返す部分、長い描写を音楽で表現できる部分は省略する手法をとりました。また小説では夢を見る男の第一人称で語られますが、歌曲では、第三者が語る形を取っています。

タイトルの「暁の星」は、歌曲集を最後までお聞きいただければ、納得していただけることでしょう。豊田さんがどんな素敵な初演を聴かせてくださるか、楽しみでなりません。



### 木下牧子 作曲家 Makiko KINOSHITA

東京生まれ。東京芸術大学作曲科首席卒業、同大学院修了。大学院在学中に合唱組曲「方舟」、吹奏楽曲「序奏とアレグロ」を発表してプロ・デビュー。日本音楽コンクール作曲部門（管弦楽曲の部）入選。日本交響楽振興財団作曲賞入選。オペラ「不思議の国のアリス」（モーツァルト劇場創立20周年委嘱作品）初演で三菱UFJ信託音楽賞奨励賞受賞。主要作品に、オペラ「不思議の国のアリス」、オーケストラのための「ルクス・エテルナ」「呼吸する大地」、ピアノ・コンチェルト、合唱とオーケストラのための「たいようオルガン」、吹奏楽曲「ゴシック」、クラリネット・トリオ「ねじれていく風景」、音楽物語「蜘蛛の糸」、ピアノのための「夢の回路」、合唱組曲「方舟」、歌曲集「晩夏」ほか多数。

今までに4回の作品個展を開催。'08年に開催した第三回個展「室内楽の夜」は「この世代の作曲家としてひとつ抜きん出た存在であることを証明した」との新聞評をはじめ多くの音楽誌で高い評価を得た。声楽系作品は特に人気が高く、オペラ・合唱・歌曲とも全国で演奏されている。出版は100冊を超える。CDに「室内楽作品集～もうひとつの世界」（レコード芸術 現代曲部門 特選盤／ライブノーツ）、「ふるえる月」（室内楽 他／ALM）、「邪宗門秘曲」（合唱&管弦楽／フォンテック）、「ピアノ作品集～夢の回路」（レコード芸術 現代曲部門 準特選盤、「CDジャーナル」「音楽現代」推薦盤／ライブノーツ）「祝福」（無伴奏合唱／日本伝統文化振興財団）ほか多数。現在、日本現代音楽協会会員。

木下牧子公式サイト <http://www.m-kinoshita.com>  
木下牧子YouTubeチャンネル  
<https://www.youtube.com/user/OfficeAsai>

# PROFILE



## 豊田喜代美 ソプラノ

Kiyomi TOYODA

東京生まれ。5才でピアノを始める。18才で声楽を始める。桐朋学園大学音楽学部声楽専攻卒業。萩谷納、柴田睦陸、柴田喜代子に師事。中山梯一の薫陶を受ける。オペラ初主演は東京オペラプロデュース公演ドビュッシー作曲《ベレアスとメリザント》メリザンド(若杉弘指揮、東フィル)。

その2ヶ月後にドイツのケルン音楽大学に留学し、エレン・ボゼニウス教授に師事。ドイツ留学時に二期会公演《フィガロの結婚》ケルビーノ及び東京オペラプロデュース公演《セヴィラの理髪師》ロジーナのオファーを受け帰国した。帰国後も引続き、デュッセルドルフのスターノ(Stano)、エーガーマン(Egermannコレペティトア)、フィールテル(Viertelドイツ歌曲)、ミラノのフェッラーリス(Ferraris指揮者)、ローマのローチ(Roachコレペティトア)他、ウィーンのプロックスベルガー(Fuchsbergerコレペティトア)、バイヤーズ(Byersヴォイス・コーチ)、バッドイ(Baddiヴォイス・コーチ)のもとで研鑽を継続している。

オペラは、二期会、東京オペラプロデュース、日生オペラの各公演、オーケストラ定期演奏会などで、《ファルスタッフ》ナンネッタ(小澤征爾指揮)、《コシ・ファン・トゥッテ》デスピーナ、フィオルディリージ(秋山和慶指揮、飯守泰次郎)、《こうもり》ロザリンデ(尾高忠明指揮)、《夕鶴》つう(團伊久磨指揮)、《オルフェオとエウリディーチェ》エウリディーチェ、《魔弾の射手》アガテ(大友直人指揮)、《ヴォツェック》マリー(小澤征爾指揮)、《ホフマン物語》ステラ・オリンピア・アントニア・ジュリエッタ(小澤征爾指揮、新日フィル)他に出演し、これまでに23作品以上の主役を歌っている。日本創作オペラ初演は、間宮芳生作曲《夜長姫と耳男》夜長姫(水戸芸術館柿落し公演、水戸室内管弦楽団)、一柳慧作曲・大岡信詩《モノオペラ火の遺言》(国内5ホールにて)、池辺晋一郎作曲《呼び交わす山

河》預源院(石川県立音楽堂柿落し公演、岩城宏之指揮、オーケストラアンサンブル金沢)他。

コンサートの分野では、小澤征爾、朝比奈隆、若杉弘、尾高忠明、大野和士、高関健、ホルスト・シュタイン他の指揮者のもと、国内外のオーケストラ定期演奏会他で演奏。マーラー交響曲第八番ではルチア・ポップ、ベルンハルト・ヴァイクル他と共演(サントリーホール)。北オランダ交響楽団定期演奏会ではモーツァルト作曲《モテット》3回全ての演奏会において全聴衆のスタンディングオーバーションを得る成果を得た。プーレーズ作曲《プリスロンプリ》(若杉弘、都響)他のオーケストラ作品日本初演ソリストとして成功の一端を担っているのは特筆に価する。日本を代表するソプラノの1人。

毎日ゾリステン主催のリサイタルを初回に、海外では在米日本大使館(ワシントンD.C.)主催、在独日本大使館(ボン)主催によるリサイタル他、米国ニューヨークのカーネギー小ホールではJ.S.バッハ及びモーツァルト作品を演奏。国内のリサイタルでは「モーツァルトのオペラアリア」(サントリーホール大、東フィル)、「マーラーとR.シュトラウスのオーケストラ歌曲」(サントリーホール大、新日本フィル)、「バロック音楽作品(サントリーホールブルーローズ)他を開催している。

NHK.FM「ベスト・オブ・クラシック」、NHK.TV「ニューイヤーパーオペラコンサート」他、「題名のない音楽会」他に出演。CDは「無伴奏による日本の唱歌」「木下牧子浪漫歌曲集(ピアノ渡辺健二)」「貴志康一7つの歌曲(小松一彦指揮/都響)」他、各オーケストラ定期演奏会ライブ録音ベートーヴェン作曲《第九交響曲》など。2008年度レコードアカデミー賞特別部門賞を朝比奈隆指揮(新日本フィル)のワーグナー作曲《ニーベルングの指環》全曲が受賞し、その中の《ジークフリート》ブリュンヒルデ役を歌っている。2017年制作のNHK交響楽団記念CDシリーズには定期演

奏会での若杉弘指揮ヘンデル作曲《メサイア》モーツァルト版の演奏(ソプラノソロ)が収められている。

国立法人北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科(1998年~2007年在学)を修了し、博士号(知識科学)を2008年に取得。博士論文は「クラシック音楽歌唱における知識創造モデルスキルサイエンスからの接近」、修士論文は「音楽感受における音楽知の役割に関する一考察-J.S.バッハ《マタイ受難曲》における音楽知の機能」。博士論文研究は現在において身体運動科学者と共に継続している。

1698年ウィーン初演B.Staudt作曲「Mulier fortis(勇敢な夫人・細川ガラシャ)」の原譜・演奏研究を2002年より行なっている。この作品の日本初演・世界蘇演の企画演奏を2013年~2014年に行なった(東京紀尾井ホール・京都長岡京市ホール・沖縄県立芸術大学奏楽堂)。2017年に教会音楽家研修を始めた。

第11回ジローオペラ賞、第16回サントリー音楽賞、各賞受賞。沖縄県立芸術大学・大学院教授(2010~2017)。ウィーン・ハプスブルク宮廷芸術友好協会、日本演奏連盟、日本グレゴリオ聖歌学会、日本声楽発声学会(理事)、沖縄声楽発声研究会(代表)、各会員。東京大学教養学部非常勤講師。二期会会員。



## 田中悠一郎 ピアニスト

Yuichiro TANAKA

群馬大学教育学部音楽専攻卒業、同大学院教育学研究科修了。2011年より渡独、カールスルーエ音楽大学大学院歌曲伴奏科を最優秀の成績で修了在学中には同大学伴奏員を務める。2011~2012ベルギー王立ブリュッセル音楽院国際歌曲マスタークラス修了、修了演奏会に出演、著名な演奏家から薫陶を受ける。2013年、オランダにてテノール歌手Jonghoon You(柳鍾勳)とのリートデュオが2013年International Student Lied Duo Competition2013(国際学生リートデュオコンクール)にて第2位を受賞、それを期に音楽祭に招待されリサイタルを行い、好評を得る。ドイツ、フランス各地で演奏会に出演し、新聞紙上で「卓越した伴奏」と評された。

ヨーロッパでの研鑽を積んだ後2014年に帰国、帰国後平成26年度第25回友愛ドイツリートコンクール、平成27年度第26回奏楽堂日本歌曲コンクール、平成29年度第1回座間日本歌曲コンクールにおいて優秀共演者賞を受賞。これまでにピアノを、雨宮栄子、朴敬二、坪田昭三、大迫千恵美、三國正樹、辛島輝治、斎藤雅広の各氏に、歌曲伴奏法を塚田佳男、子安ゆかり、U・アイゼンロール、M・ハドゥラの各氏に師事。現在、歌曲・室内楽のアンサンブルピアニストとして活発に活動している。群馬県立西邑楽高校芸術系音楽コース講師。国立音楽大学嘱託演奏員。



# リサイタルによせて～演奏歴43年を振り返って 豊田喜代美

## 共演者からの学び

私が今日まで演奏活動を行えているのは、指揮者の小澤征爾氏と若杉弘氏の共演の場で受けた教えが演奏することの基盤にあるからです。

私は23才の二期会オペラ研修生時にオペラの初舞台を踏み(二期会公演「フィガロの結婚」の花娘、他)、25才でオペラの主役デビュー(東京オペラプロデュース「ペレアスとメリザンド」のメリザンド)以来、多くの皆さまに応援いただき今日まで歌っております。その最初の「ペレアスとメリザンド」の指揮者であった若杉弘先生は、その後、モーツァルト版の「メサイア」(NHK交響楽団定期演奏会)、ブーレーズ作曲「プリ・ス・ロンプリ」(東京都交響楽団定期演奏会)など、多くの貴重な演奏の機会をくださいました。「喜代美ちゃん、年を重ねると表現の引き出しは豊かになる。その時に声が無くなって歌えないと悲しいよ。引き出しを自在に使えるように声を維持できるようにしてね。」との言葉をいただき、それは通奏低音のように私の中に響き続けております。マエストロ小澤征爾の爆発的圧倒的な音楽の力によって、最初の共演(ベートーヴェン作曲「ミサソレムニス」)時から、私のちっぽけな自尊心や体裁はものの見事に粉碎されました。小澤先生との初共演からは「楽譜に全てがある。勉強あるのみ。自分がどう演奏するかが重要。」との教えを私なりに感じました。以後「楽譜に全てがある。勉強あるのみ。」は音楽演奏の道標としてあります。「表現力がすごい」との評価を頂きました。それは小澤先生の何ものにも囚われない自由な魂からの表現力が共演で伝わって私の表現力が開発された結果と思っています。誰と共演するかが演奏者の成長に大きく作用する可能性を体験したと思います。小澤征爾先生の音楽作品に対する姿勢と生き方を見て、また共演時に伝わる音楽の喜びからプロフェッショナルとはどういうものかを私なりに感じてき

ました。その教えの成果は北オランダ交響楽団定期演奏会モーツァルト「モテット」3回全てのスタンディングオーベーションはじめ国内のオーケストラとの演奏成果他に導いたと思います。小澤先生は私を音楽の道に立たせてくださいました。その他にも素晴らしい指揮者・オーケストラ・共演者との演奏本番で体感している、かけがいのないものを、これからも皆さまと分かちあっていたら幸いに思います。

## 声楽トレーニングについて

1999年北陸先端科学技術大学院大学に入学して始めた博士論文研究(2008年博士取得/課程)『クラシック音楽歌唱における知識創造モデル—スキルサイエンスからの接近』は現在も継続中です。1998年にホスピスの患者さんとの素晴らしい出会いがあり、音楽の本質をもっと知りたと思ったのがこの研究のきっかけです。これは知識科学を枠組みに主観と客観の視点から歌唱技術向上の声楽トレーニング内容について考究する機会となりました。この秋は「楽器としての身体:声楽の実践と科学」の授業を東京大学教養学部にて身体運動科学を専門とする工藤和俊准教授とともに担当しております。これまでの私の音楽芸術体験と研究成果を若い人に伝えながら一緒に研鑽することには深い充足感と喜びがあります。更に研究を深め、一人ひとりオリジナリティ豊かな声楽の楽器づくりに貢献できることを目的に努め、著書に収めたいと考えております。

歌唱技術はこの世を去る瞬間まで向上するとのことなので、地道に声楽発声トレーニングに努め、演奏と指導の場で感じ、考え、向上していきたいと思っております。日本作品が次々と生まれ出ることを願いつつ、日本作品と共に世界中に多くある素晴らしい音楽作品の演奏を楽しみに努めます。よろしく願いいたします。

本日はご来場下さいまして、まことにありがとうございます。

## 豊田喜代美のCDを株式会社二期会21で販売しております。

### ● 木下牧子浪漫歌曲集

豊田喜代美/ピアノ:渡辺健二 ▶(株)フォンテック ¥2,100

### ● 貴志康一 交響曲「仏陀」/7つの日本歌曲より

豊田喜代美/指揮:小松一彦/東京都交響楽団 ▶ビクターエンタテインメント(株) ¥2,000

### ● ヘンデル(モーツァルト編)オラトリオ「メサイア」K.572 <NP90周年シリーズ>

豊田喜代美/指揮:若杉弘/NHK交響楽団/ほか ▶KING INTERNATIONAL(2枚組) ¥2,800

ご希望の際には、恐れ入りますが下記よりお申込みくださいますようお願いいたします。

㈱二期会21ホームページ <http://www.nikikai21.net/cd/index.html> \*注文方法の詳細いご案内を記載しております。

メール連絡先 [nikikai@mx3.alpha-web.ne.jp](mailto:nikikai@mx3.alpha-web.ne.jp) \*ご希望の「CDタイトル」「数量」「お名前」「e-mailアドレス」および、商品送付先の「郵便番号」「ご住所」「お名前(フリガナ)」「電話番号」をご記入の上、上記アドレスへ送信してください。